



東京都社会保険労務士会

千代田統括支部 会報

発行人 千代田統括支部長 味園 公一

事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-1-5 第二中央ビル2階

味園社会保険労務士事務所内 ☎03(3556)7879

URL = <http://www.sr-ccs.com>



富士山と芝桜と桜

- 新春研修会・賀詞交歓会
- 平成28年度後期必須研修会
- 労働環境モニタリングを体験して
- 講師体験記
(二松學舎大学附属高等学校の年金授業)
- 新規入会者オリエンテーション
- 支部顧問から一言～会員へのエール～
- JAL工場見学会
- 東京会主催支部対抗ボウリング大会
- 講師体験記
(労働保険新規加入事業場説明会)
- 政治連盟だより
- 新入会員を紹介します
- あとがき

新春研修会

平成29年1月25日(水)、お茶の水ホテルジュラクにて、新春研修会及び賀詞交歓会を開催しました。新春研修会は、モンゴル国商工会議所・日本会頭 U.ウルジ氏とモンゴル伝統「ホーメイ」、歌手のボルドエルデネ氏をお迎えして演奏と歌のご披露と、「モンゴルの歴史と魅力」をテーマにご講演をいただきました。

研修会終了後は、石川雅己千代田区長、前田昭博東京都社会保険労務士会会長、行政関係者をはじめ多数のご来賓をお招きして賀詞交歓会を開催しました。



冒頭、ボルドエルデネ氏より民族楽器である馬頭琴を使った歌を2曲ご披露いただきました。同氏は2015年モンゴル国大統領より北極星勲章を受章されるほどの実力者です。

ゆったりと奏でられる馬頭琴の音色と深みのある独特の歌声の曲で、会場はまるでモンゴルの悠久の大草原にいるような雰囲気になりました。これはホーメイという歌唱法で、笛のような高い音とコントラバスのような深みのある独特のものです。この高音域に入ると低音と高音が同時に出るという不思議な発声法で、会場が驚きと感動で満たされました。

スライドを観ながらのウルジ氏の講演には、現在のモンゴルの暮らしぶりや経済に対する情報提供がありました。人口は312万人、首都ウランバートルにその半数が暮らす「中央アジアで唯一の民主主義国」です。主な産業は鉱業、放畜業、流通業、軽工業で、輸出では石炭・金・銅・モリブデン・螢石を始めとした鉱業や毛皮・皮製品・カーペット・カシミア・ウールニットなどの縫製品が主力です。また輸入では、石油燃料・自動車・機械設備類・医療品・建材資材・化学品・金属および食品等の輸入が主です。

GDPの構成比率では農林畜産の1次産業が16.5%、鉱業・電力事業を含む2次産業が32.6%、通信や金融・小売りなどのサービス関連である3次産業が50.9%を占めており、経済成長率は7.8% (2014年時点) と成長が著しい国です。

日本とモンゴルとの関係では、主要貿易相手国として輸出・輸入共に上位5か国に日本が含まれており、日本に期待することが多いと語られていました。現在は、特に中小企業を育てたいとの意向から、ウルジ氏は若手企業経営者の指導と日本企業の紹介を積極的に行っています。日本の技術指導による「ものづくり」でモンゴル産業のブランド化を図るべく、人材育成及び実習生受入先紹介といった活動の様子がよく分かりました。

モンゴル人と日本人には共通点の一つは「蒙古

斑」があることです。蒙古斑がある民族は北はハンガリー、フィンランド、南はインドまで広範囲に広がっているとのことでした。そんなモンゴルには親日家も多く「日本とモンゴルの絆を深めることは私の使命」との熱い思いが伝わるお話でした。ウルジ氏の今後の活動としては「貧しくて優秀な若者たちの教育のための奨学金支援」や「母子家庭自立支援プロジェクト」などにもさらに力を入れていかれるとのことでした。映し出されたたくさんのスライドから、モンゴルが「青空の国」「自然を大切にする遊牧民の国」であることがとてもよく伝わり、随所に語られていた遊牧民族であるからこそそのアイデンティティは、現代のモンゴル社会にも十分残っていると感じられました。なお、2017年の夏にはモンゴルの観光産業の支援として、ツアーも予定されているとのことでした。

冬が終わり、新緑で草原が覆われ、さわやかな風が吹くこれからの季節、また、ウランバートル市内は冬よりもさらに空気が澄んでくる夏が特にお勧めとのことでした。ぜひモンゴルに行って「草原の風」を体験してみたいと感じました。

(広報委員：帆刈 剛)



研修会後の賀詞交歓会

賀詞交歓会は味園統括支部長の年頭のご挨拶から始まりご来賓のご挨拶・乾杯を経て、盛大で楽しいひと時でした。たくさんの会員の方にご参加いただきました。



平成28年度後期 必須研修会

開催：平成29年2月22日(水)
場所：損保会館 大会議室

第1部

社労士会労働紛争解決センター 東京の活用の仕方

平成28年度の後期必須研修会の第1部研修として上記テーマが取り上げられました。

はじめに、「個別労働関係紛争解決のしおり」とレジュメが配布されて、社労士会労働紛争解決センター東京センター長の森岡三男氏、運営委員の太田雅美氏が登壇されました。

最初に「特定社会保険労務士として、あっせんの代理人又は補佐人を担当したことがあるか?」「個別労働関係紛争解決のしおりを読んだことがあるか?」との問いかけがあり、大勢の受講者の中で数名の挙手があるだけでした。特定社会保険労務士は個別労働紛争の代理人ができるが、特に民間のADRである社労士会労働紛争解決センターの活用が少ないという現状と、この場でセンターのPRをしたいというお気持ちを述べられました。



昼の部・夜の部

講師

社労士会労働紛争解決センター東京センター長

森岡 三男 氏

社労士会労働紛争解決センター東京 運営委員

太田 雅美 氏

御茶ノ水ソラシティ4階にある当該センターの特徴は、①申立費用は無料、②平日夜間(17時～20時)、土曜日実施、③原則3回までの複数回、④2名のあっせん委員(特定社会保険労務士)が対応、⑤使用者側からのあっせん申立ても受け付ける等です。また、使用者と労働者が直接会わないよう配慮し、労働局の原則1回限りのあっせんに比べ、複数回実施するなど、より丁寧で細やかな対応をされているとのこと。

後半では、センターで取り扱ったパワハラや、退職勧奨、時間外手当未払い等の事例紹介がありました。訴訟と違い、勝ち負けを決めるのではなく、双方の話を聞きながら円満に和解できるよう進めていくこの制度を、私たち社会保険労務士がもっと活用していけたらと改めて思いました。

(広報委員：山本 容子)

第2部

「仕事と介護の両立支援に向けて」 ～企業に求められる取組みとは～

日本は現在すでに超高齢社会に突入しており、間もなく「大介護時代」が到来します。年間約12万人が介護離職を余儀なくされているなか、介護従事者は40歳代後半から50歳代が多く、企業は、「中核を担う人材の流出」、社員は、「キャリアの再開が困難になること、生涯所得の減少」等が課題となっています。

利用率が低い介護休業制度も今年1月に法改正され、柔軟化されました。介護に専念する期間ととらえてしまうと先行きが見通せず、まとまった休みをいつ取るかの判断が難しくなり、職場復帰に繋がらない可能性もあります。仕事と介護を両立させるための準備期間としてこの介護休業制度を適切に利用することが必要です。

また、将来直面する介護に対する不安についての調査では、9割以上の社員が程度の差こそあれ、「不安である」と答えています。企業が情報提供



講師

株式会社 東レ経営研究所

ダイバーシティ&ワークライフ

バランス推進部

昼の部 推進部長

宮原 淳二 氏

夜の部 コンサルタント

永池 明日香 氏

や両立できる職場であることを伝えることで、不安が軽減できる場合も多い、とのこと。

企業が仕事と介護の両立支援をする際のポイントとして、①介護が起きる前に必要な情報を提供するなど、準備段階での取組みを行うこと、②介護に直面した後は、社員が相談できる体制の整備、ワークライフバランスが実現できる働き方や職場環境づくり、③管理職の職場マネジメントがカギとなるため、管理職の介護への理解醸成等が挙げられます。

研修会の後半では、DVDによるケーススタディの視聴後、活発な意見交換や経験談の発表でいつも以上に盛り上がり、今回のテーマに対する関心の高さがうかがえました。改めて「お互いさま」と理解し合える職場環境づくりと、働き方改革の必要性を感じました。

(広報委員：甘竹 美樹)

労働環境モニタリングを体験して



モニタリング調査を終えて

菊池 正典（開業）

モニタリング調査は、千代田区の指定管理者施設等で働く職員に関する処遇、勤務形態、身分の安定性、安全衛生等の労働環境について調査し、課題や今後の方向性を分析します。今回私たちのグループは、特養ホームの管理施設の調査を行いました。施設に伺い、丸一日かけて就業規則、法定帳簿、雇用契約書、手続書類、安全衛生書類等の中身をチェックします。また、就業実態を知るため、職員に直接ヒヤリングをし、労働環境等についても話を伺います。職員数が100名弱ということもあり、用意していただいた資料も膨大でチェックするのが一苦勞でした。以前調査を受けた施設ということもあり、大きな改善点はありませんでしたが、それでも細かな箇所（法改正事項の更新や雇用契約書記載内容等）で不備が見つかりました。調査は、書類を見て法令の遵守をチェックするだけでなく、職員ヒヤリングも行うので、職員の処遇等の向上にも繋がり労使共に大変有効な手段だと思います。今回、仕事がきついイメージの介護職員であるにもかかわらず、皆働き易いとおっしゃっていたのが印象的でした。日頃職員のケアを欠かさない施設側の配慮の賜物だと思います。この調査は、社労士だからこそできるものだと改めて実感でき、長く続けることで少しでも労働環境が向上してもらえれば幸いです。



モニタリング調査を担当して

石本 剛（開業）

今回、高齢者活動支援施設（施設数1・従業員20名）の労働環境モニタリング調査を担当させていただきました。

調査の主な流れは、①就業規則類の事前精査、②現地にて施設内作業環境の確認、③従業員ヒヤリング、④法定三帳簿など労務関係書類や労働社会保険関係の各種帳票資料ほか内容確認、⑤管理者ヒヤリング、⑥千代田区と施設責任者へ中間報告、⑦千代田区へ最終報告書提出、となります。

7名実施した従業員ヒヤリングでは「有休」「時間外労働」「休憩」「労災事故」「上長との面談」など様々な面から本音を聴き取ります。管理者ヒヤリングも同様ですが調査の目的はより良い職場環境整備にあり、単に誤りを咎めるものではないと説明、就労実態の正確把握に努めました。

現地調査中、ある従業員から「有期契約の無期転換制度（平成25年改正労契法）」に関し、助言を求められました。突然の対応には苦慮しましたが、社会保険労務士への期待や信頼に基づく行為と思われ、諸先輩方が長く築いてこられた財産を感じ、嬉しくも身が引き締まる思いでした。

最後に、近未来の人工知能汎用化を見据え、改めて社会保険労務士倫理綱領にある「知識の涵養」「信頼の高揚」に日々精励しようと考えます。今回も貴重な機会をいただき御礼申し上げます。

「二松學舎大学附属高等学校の年金授業」講師体験記

二松學舎大学附属高校2年生に向けて、年金授業を実施しました。授業1コマは50分ですが、授業の前後に先生のお話、アンケートもありますので、講師の持ち時間は約40分です。限られた時間の中で、高校生の興味を引くような内容になるよう、毎回あれこれ考えています。

今回は、アニメの登場人物を使い、若い人が気になるであろう「私たちは年金をもらえるの？少子高齢化の影響は？」といった点に力を入れて説明しました。生徒の反応があらうがなかろうが、熱く語り続けること40分、残念ながら突っ伏している生徒も数人…。

しかし驚くべきことに、アンケート結果ではすべての項目について、全員が「理解できた」と回答してくれていました（耳だけ起きていたので

しょうか！）。コメント欄では「これまであまり興味がなかったが、もっと老後のためにやるべきことがあることが分かった」「若い間はたくさん働いて受給者を支えたい」といった前向きな感想を多くいただくことができました。

千代田支部での年金授業開始から3年、おかげさまで先生方や年金事務所の方からは「社労士の授業」に一定の評価をいただけるようになりました。今後、年金だけでなく労働関係の授業も展開できるように、尽力したいと思います。

藤原 佳代子
（法人社員）



新規入会者オリエンテーションを開催！

平成29年2月27日(月)、神田明神にて新規入会者オリエンテーション(平成28年1月～平成28年12月新規入会者または所属者対象)を開催しました。来賓挨拶や新規入会者自己紹介の後、和やかに懇親会が催されました。新入会員の方々からいただいた自己PRや今後の抱負等の一部をご紹介します。新入会員の皆さん、今後ともよろしくお願いいたします。



★靖国神社の近くで開業しています。一通り業務は行っていますが、特に障害年金請求代行業務とあっせん代理に力を入れています。お客様の満足度を高めるため、専門性の高い筋肉質な組織にしたいと考えています。少しでも支部に貢献できるように頑張ります。

【梅川 貴弘／開業】

★昨年9月に念願かなって神田で開業いたしました。現在、事務所内の業務以外に社労士成年後見センター東京の会員やとうきょう成年後見研究会の自主研会員になる等、社会保険労務士が成年後見制度の中で活躍できるように模索しています。

【金子 信／開業】

★2008年4月から千代田区神田で行政書士の国際業務を展開してまいりました。これからは、外国人の在留資格取得から雇用管理、社員教育に至るまで社会保険労務士の資格を活かし、実務に取り組んでいきたいです。また、助成金、介護離職防止等、企業のニーズが高いテーマについても勉強し、実務の中で活かしていきたいです。

【佐藤 正巳／法人社員】

★人材紹介業を行っており、日々の労務相談にも中立的、専門的なアドバイスが行えるよう知識向上に努め、多くの人に信頼される社会保険労務士を目指したいと思います。研修会には積極的に参加させていただきます。

【長尾 道成／勤務等】

★11月から中央支部より異動してまいりました。製薬メーカーで営業→国際部門→製造部門の人事→企画等の業務を渡り歩いております。勤務等ですので機会を見つけて支部活動にも積極的に参加していければと考えています。

【長江 俊宏／勤務等】

★会社では顧客への営業・協力会社との取引、それに伴う契約上のフォロー役や法務・派遣法対応をしています。社会経験はベテランですが社労士としての経験不足と業務や実務面での不足点を反省しつつ、社労士会に参加させていただくからには総合的に勉強したいと存じます。

【梨本 英彦／勤務等】

★昨年9月に開業登録いたしました。税理士事務所で11年勤務していますので、士業での経験を活かし広い視野を持った社労士になることを目指しております。学ぶことばかりで文字通り0(ゼロ)からのスタートですが、貪欲に知識や経験を積み重ねていきたいと考えております。

【樋口 雄一郎／開業】

★大手税理士法人に約20年間勤めてまいりました税理士です。社労士としてはこれからですので、紹介し合い、補い合っていければ幸いです。事業承継、相続を特に得意としております。

【村本 政彦／開業】

☆電子申請が得意で、eGovを使いこなしています。知識も経験も浅いので、支部の研修等に参加して勉強していきたいです。

【山崎 沙弥佳／勤務等】

★これまで企業において人事部門を永年担当してまいりました。人事の側面から企業経営に貢献できればと考えています。これまで永年培ってこられた支部活動に敬意を表するとともに、その活動にも微力ながら貢献できればと考えています。

【山本 陽二／勤務等】

☆企業で延べ14年間、人事・総務を担当し、昨年10月より社労士事務所で働き始めました。今後は研修会等に積極的に参加し、研鑽を積んでまいりたいと思います。

【渡邊 元香／勤務等】



支部顧問から一言 ～会員へのエール～



近頃の雑感

顧問

仲野 三郎 氏

社会保険労務士制度が発足して来年で50年を迎えるところですが、今漸く先発他士業と肩を並べるまでになったことは、誠に喜ばしい限りです。

社労士の資質も著しく向上していると思いますが、行政当局や国民の皆様から全幅の信頼を得ているとは言い難いと思います。また、特定社会保険労務士制度が発足した当時、屋上屋を重ねるとして反対の声もありましたが、その後の社労士の資質の向上は、著しいものがあつたものの、一部においては、未だ代行屋的感觉が抜けきれていないとの指摘もあります。

千代田支部の運営管理にあたっては、役員一同大変ご苦勞のことと思います。1,400人を超える圧倒的大支部となった今日、各種研修・諸会議等の開催は、開催場所及び運営等、かなり厳しいものがあると思います。支部組織に関わることは東京

会の所管のため、速やかな解決は難しいと思いますが、支部の分割等、支部として検討する必要があると思います。

社会保険労務士法には、会の使命として、会員の権利義務、会員登録事務及び研修の実施等が定められています。とくに会員の資質の向上に向けての研修は、必須重要事項と思います。会員の権利義務は同一であり、一部の会員のものではないので、優れたバランス感覚のもとに、支部の会務を実行してほしいと期待して止みません。

近頃、健康経営ということを見聞し、「健康経営とは経営者が将来の事業の収益を高めるために経営的視点から、従業員の健康の保持増進を戦略的に実施すること」だとしていますが、凡そ社会保険制度、とくに健康保険等、医療保険制度に於いては、法の趣旨・目的に含有されており、敢えて適用事業所に対して取り上げることの必要性はないと言わざるを得ません。要は、さらに一層、当該所管官公庁や各保険者が、従業員の健康の保持増進について内容の濃い事業運営を実施することが重要であると思います。

社会保険制度にかかる業務を60有余年携わってきた者として、所感の一端を述べた次第です。



社会保険労務士制度 創設50周年を迎えて

顧問

新堀 英行 氏

平成30年に社会保険労務士制度創設50周年を迎えることになります。昭和43年6月3日に社会保険労務士法として制定、同年12月2日に施行されました。私たちの先輩は、成立までの数年にわたり大変なご苦勞をされたことと思います。その後、再三の法律改正を経て、現在の制度が出来上がりました。その成立までの苦勞は大変なものであったと聞いております。

私がこの世界に入職した昭和31年ごろの先輩たちは、多方面にわたり法制化の運動に取り組み、政・官・学界等に働きかけ、その礎を築いてこられたことを考えると、その功績を讃え感謝申し上げる次第です。

この間5～60年、世代交代の名のもとに、多くの先輩は評価されることも少なく社労士業界を

去っていかれているとしたら、大変気の毒なことと思います。

このような経過を考えると、現在の社労士は先輩たちの築き上げた制度の恩恵を受けて仕事ができることの喜びをしっかりと噛みしめてもらいたいものです。

現在の社労士会の組織は、東京会も支部も充実し、活発な活動をされており、感服しております。これからの会活動を考えると、会員同士の融和と他士業との関係に気を遣ってほしいと思います。

また、支部の特徴を考えると、組織も充実し、有能な人材も数多く配置し、業務にあたっているように見受けられ、好ましい状態で進行していると思われます。

特に支部の特徴としては、

①規模が大きい、地の利がある

②勤務会員が多い

③女性・若い会員が多く活気に満ち溢れているといった点が挙げられます。これらの利点を活用し、千代田統括支部をはじめ社労士業界のよりいっそうの発展が望まれるところであり、期待しているところでもあります。

JAL工場見学会

平成29年2月5日(日)羽田空港で開催の『JAL工場見学会』に参加しました。支部会員とその家族で総勢41名の参加となりました。

最初に座学で飛行機が飛ぶ原理や羽田空港について学びました。翼と迎え角により、気流と風の原理を使って重い鉄の塊でも空を飛べることや、夏は北風、冬は南風を利用するために羽田空港は南北に作られているとの説明に深く納得しました。

休憩時間には、展示エリアを見学しました。歴代の制服やタイヤ内部の展示など興味深いものばかりです。制服で記念撮影やシート体験の後、いよいよ格納庫見学です。普段は近寄れない飛行機の足の部分に近づいたり、シートを全て外に出してから収納する客室整備の方法等の説明を受け、



とても勉強になりました。整備員の方々とも沢山すれ違い、多くの人が関わっているからこそ安全が確保されているのだと痛感しました。

その後は、羽田空港で懇親会。見学の感想等で盛り上がり親睦を深めました。

企画、運営された皆様ありがとうございました。

(広報委員：末松 弘美)



第25回 東京会主催統括支部・支部対抗ボウリング大会

平成29年2月17日(金)、東京都社会保険労務士会主催の第25回統括支部・支部対抗ボウリング大会が東京ドームボウリングセンターで開催されました。当支部からは、昨年の予選会を勝ち抜いた上位8名による2チームが参加しました。団体戦は善戦及ばず入賞を逃しましたが、個人戦で第70位に深田氏、第60位に十佐近氏が入賞し、東京会会長賞を個人戦第18位で青木氏、女子の部第12位で十佐近氏が受賞しました。来年は悲願の団体戦入賞を目指しましょう！

(広報委員：浅井 英憲)



【チーム構成/敬称略】

Aチーム		Bチーム	
浅井 英憲	和田 稔	味園 公一	深田 康弘
青木 哲郎	柏木 寿人	青山 弥生	十佐近 三生

「労働保険新規加入事業場説明会」講師体験記



後 藤 武
(開業)

平成29年2月20日(月)に東京労働局九段第3合同庁舎会議室において開催された「労働保険新規加入事業場説明会」の講師を務めました。当日は天候が思わしくない中でも約70社の方々にお越しいただきました。

労働基準監督官による労働保険の各種届出事務と労災保険の業務災害及び通勤災害の認定と給付手続、労働基準法の説明の後、私から「雇用保険と社会保険について」という内容で説明をさせていただきました。新規加入の事業所を対象としているため、レジュメ作成において図や事例を多く

取り入れ、私なりに皆様にわかりやすくお伝えできたかと思います。

また、保険制度による適用の違いや、給付の概要などは資料作成を通じ、私自身改めて再確認することができました。

講義後半の部分では、給与計算の保険料徴収に関し注意すべき点や、税務の考え方と混同しやすい部分についての説明もしました。この点は私も社会保険関係の実務をするまで迷うことの多い部分でした。

今回は初めての講師経験でしたので、うまく説明できるか不安もありましたが、無事に終えることができました。講師を担当するにはまだまだ私自身勉強する部分も多く、大変貴重な経験をさせていただきました。この場にて御礼申し上げます。

支部会員の皆様こんにちは。支部会報の紙面をお借りして、最近の政治連盟の活動についてご報告いたします。

1. 2月5日(日)に任期満了に伴う千代田区長選挙が実施されました。当時現職の石川区長は、区の指定管理団体に関する「労働環境モニタリング」をはじめとする様々な事業を企画するにあたり、従来から当支部に厚い信頼を寄せられており、その実施にあたってはこれまでに多くの会員がかかわってまいりました。

このたびの選挙においては石川区長から当支部に推薦の依頼を受けました。支部の政治連盟としましては、機関決定が必要であると判断し、臨時の役員会議を開催いたしました。その結果、石川氏の推薦を正式決定し、事務所

開きに併せ推薦状を持参いたしました。また石川区長の再選後は選挙事務所に当選祝いのごあいさつにうかがいました。

2. 昨年来、当支部役員の尽力により交流を深めてきた東京司法書士会千代田支部会員との意見交換会が2月23日(木)に開催され、当支部役員とともに参加いたしました。昨年10月お茶ノ水ソラシティで実施された当支部主催の「無料街頭相談会」にも行政書士会千代田支部の皆様とともに参加いただいております。私たちが3つの士業を繋ぐ重要な役割を担っているものと感じたところです。今後も政治連盟は多方面で社労士制度に対する幅広い理解を得られるよう活動をしてまいりたいと考えます。(政治連盟支部会長 橋本 敬司)

新入会員を紹介します

平成28年12月1日(異動入会は平成28年10月20日)～平成29年2月28日

入会年月日	氏名	種別	入会年月日	氏名	種別	入会年月日	氏名	種別
H28.10.20	前田 英典	法人社員	H29.1.1	内山 美央	勤務等	H29.2.1	大形 賢治	勤務等
H28.12.1	北村 庄吾	法人社員	H29.1.1	影山 祐子	勤務等	H29.2.1	笠原 玲子	勤務等
H28.12.1	山出 良子	法人社員	H29.1.1	長尾 道成	勤務等	H29.2.1	北澤 敬二	勤務等
H28.12.1	村本 政彦	開業	H29.1.1	中野 剛生	勤務等	H29.2.1	兼定 尚幸	勤務等
H28.12.1	伊沢 功次	勤務等	H29.1.1	能登 聖	勤務等	H29.2.1	高垣 勲	勤務等
H28.12.1	大室 陽一	勤務等	H29.1.1	芳賀 満	勤務等	H29.2.1	高野 智子	勤務等
H28.12.1	川勝 隆	勤務等	H29.1.1	藤波 由美子	勤務等	H29.2.1	辻 麻矢	勤務等
H28.12.1	小林 里美	勤務等	H29.1.1	堀 理英子	勤務等	H29.2.1	仲野 陽子	勤務等
H28.12.1	東郷 梨絵	勤務等	H29.1.1	山本 陽二	勤務等	H29.2.1	沼澤 修	勤務等
H28.12.1	梨本 英彦	勤務等	H29.1.4	三浦 由夫	法人社員	H29.2.1	平野 剛志	勤務等
H28.12.1	山崎 沙弥佳	勤務等	H29.1.5	金田 文彦	勤務等	H29.2.1	吉安 貴志	勤務等
H28.12.9	峰岸 友紀子	勤務等	H29.1.24	杉崎 和博	勤務等	H29.2.1	渡邊 元香	勤務等
H28.12.26	山口 久仁幸	開業	H29.1.28	上村 美由紀	法人社員	H29.2.9	中山 登介	勤務等
H29.1.1	佐々木 綾	開業	H29.2.1	鈴木 真吾	開業	H29.2.10	小林 優美子	開業
H29.1.1	萩原 真也	開業	H29.2.1	蓮見 和也	開業	H29.2.17	鈴木 孝之	開業
H29.1.1	行田 聡	開業	H29.2.1	大石 晃裕	勤務等	H29.2.17	天田 知宏	勤務等

あとがき

最近、「マインドフルネス」という言葉をよく耳にしませんか?「心を今この瞬間に集中する」ということです。元々は仏教の思想ですが、無宗教化され欧米で盛んになり、最近では日本の大企業等の研修でも盛んに取り上げられるようになってきています。

「今、ここ」に集中するのは、結構大変なことです。給与計算のチェックや、法令を細かく見ていると、知らず知らずのうちに、今ここではなく、終わった後のことや過去のことに意識を飛ばしている自分に気づきます。全く修行が足りません。

季節は春。今年の春もまた、1度きりの春です。一日一日を丹念に丁寧に、毎日の出会いを大切に過ごしていきたいものです。

(広報委員：藤田 久子)

広報報委員会の協力委員になってから4年が経ち、今回で4度目の編集担当です。そのうち1回は1月、3回が4月の発行でしたので、この「あとがき」を書きながら、都度、節目というものを意識し、それまでの出来事を顧みながら感慨深いひと時を過ごさせていただきました。

春は「サヨナラ」の季節であり、そこからまた新たな出会いや始まりがあるとよくいわれます。人がもてるものや時間には限りがあり、何か新たなものを得るには、慣れ親しんだものを手放す勇気もときには必要です。そんなとき、やはり春は力強く背中を押してくれる季節です。新たな挑戦の機会を常に大切にしていきたいです。

(広報委員：長崎 明子)